

喫茶シェーンの

昭和の香り漂う 思い出のナポリタン



ふるじょうみつよし
古城満義さん

私の Food記

薩摩川内風土記



東郷町で生まれ、東京で勤務をしていた姉に付いて上京し、18年くらいを横浜で過ごしたという古城さん。

35歳の時に、地元東郷町に戻り、友だちに誘われて初めてコーヒーを飲みを訪れたのがここ喫茶シェーンでした。

当時、まだスパゲティがそれほど浸透していない中、食べたこのナポリタン(ここでの現在の呼称はイタリアンスパゲティ)のオシャレさとおいしさに心を奪われたそう。

それから、足繁く通うようになって35年。今でも週に1、2回は必ず通うほど。

「この料理は、ラーメン、うどん、チャーハンとなんでもおいしいけど、鉄板に卵が敷かれて出てくるナポリタンが昔から変わらずおいしい」古城さんは続けます。

「昔は、どこの喫茶店にもよくあったインベーダーゲームや、入口には西部劇で出てくるような左右に開くドアなどもあった。そういうものは無くなってしまったが、店の雰囲気と料理の味は何も変わらずあの頃のまま。いつまでも懐かしい」

かつて、長距離トラックの運転手をしていた古城さん。日本全国走り回った後、必ずここに寄って、トーストやナポリタンを食べては、地元に戻ってきたことを実感し、ホッとしていたんだそうです。

ピーマン、タマネギ、ニンジンと具材はシンプルで、ケチャップで濃い目に味付けされたナポリタンは、卵の優しさと相まって絶妙なハーモニーを奏でます。

そんな昭和の思い出が詰まった優しいナポリタン。ぜひお店でご賞味ください。

ナポリタンの楽しみ方

- ①お店に入店する。
- ②辺りを見渡し、お店の雰囲気を楽しみながら、お気に入りの席を探す。
- ③席に着く。
- ④メニューをゆっくり開く。
- ⑤ナポリタン(ここでの呼称はイタリアンスパゲティ)を注文し、一人の時間を楽しみながら待つ。
- ⑥ナポリタンが出てくる。
- ⑦フォークでクルクルして味わう。

ワンポイント

お好みで粉チーズやタバスコはもちろん、アイスコーヒーなどお好きな飲み物と一緒に。



喫茶シェーン
東郷町斧淵264
☎(42)1173
営業時間:11:00~00:00
不定休



皆さんの思い出の料理を大募集

皆さんの思い出の料理とそれにまつわるエピソードなどがありましたらどしどし情報をお寄せください。取材に伺います。
問合せ先/本庁広報室広聴広報G(内線633)

キジカケル 私のFood記 コラボ企画

キジカケル



突撃レポート

第16回
昭和の香り漂う
思い出のナポリタン編

私の Food記

薩摩川内風土記

とある喫茶店で、一人くつろいでいるとこんな話が聞こえてきました。「昭和の頃の喫茶店が懐かしいなあ。低めのテーブルに深いソファ。『レーコー(アイスコーヒーのこと)』『レスカ(レモンスカッシュのこと)』。最高だったよな」「懐かしいなあ。テーブルゲームしながら『厚切りトースト』『ナポリタン』とか。うまかったよなあ。今、どんなにおしゃれなスパゲティが登場しても俺はやっぱり昔ながらのナポリタンが好きなんだよな」



昭和の記憶

レーコー?レスカ?ナポリタンはスパゲティって分かるけど、そんなに懐かしくておいしいものなのかな。調べてみると「レーコー」や「レスカ」は、古き良き昭和文化で、オシャレの代名詞的に当時の若者の間で使われていたようです。

ちなみに「ナポリタン」は、現代でもよく聞くスパゲティだけど、特にタマネギ、ピーマン、ハムなどにもトマトケチャップで炒めた日本で創作されたパスタ料理のことみたい。



イタリア料理をまねて日本にある材料で作ってましたってところかな。場所によっては、「イタリアンスパゲティ」という名で呼ばれることもあるみたいだけど、ほぼ同義であるとのこと。昭和から続く昔ながらの喫茶店。うーん。なんかいい感じ。

静かで落ち着いた雰囲気の中で、コーヒーの香りを楽しみながら、音楽を聴き、一人せいたく時間をおく。そして、そこで味わう思い出のナポリタン。面白そうでおもしろそうじゃない?

よし、今回は、「昭和」と「ナポリタン」をテーマに、調べてみよう!

キーワードは「昭和」と「ナポリタン」

インターネットや電話帳、いろいろな方に聞いたたり、独自取材を重ねながら昭和から続く喫茶店を調べてみました。

そのうち、「ナポリタン」または「イタリアンスパゲティ」を提供するお店7店舗が目にとまりました。昭和から続く喫茶店とそこに古くから通う常連さん。

そして思い出のナポリタン……。ん?これは、「私のFood記」にも通じるものがあるなあ。

よし、じゃあ今回は、「私のFood記」にもコラボして、市内の昭和から続く喫茶店を一通り紹介しようと思います。いざ!キジカケル!

